



## 新北島中学校 学年通信 No53

2020.09.25. 発行



「命の授業」のゴルゴ松本さんは、「死を選ぶぐらいなら、今いる場所から逃げろ」と力強く訴えています。

人は、命ある限り人生を楽しむために生まられてくるんだ。好きなことも興味があることも、命ある限りにしかできない。父ちゃんも母ちゃんも、じいちゃんもばあちゃんも、ご先祖様も、つらいことや悲しいことを乗り越えてきて、今の自分につながっている。その命だから、ムダにしちゃいけない。

「兆」という字がある。例えば学校でいじめにあって今、君は、生きるか死ぬか、その両方の兆しの中にいるぐらい悩んでいる。そんな時は今の自分の状態がどうか、目偏を加えて、「眺」めてほしい。つらいな、イヤだな、死にたい。そこまで追い込まれているのなら、今度はしんように変えて、「逃」げていい。

逃げることは、自分に差し迫った危険から逃れるということだ。逃げるという選択肢は、生きているからできる。自分の命を守るためなら、学校も行かなくていい。逃げて逃げ切って、周りをもう一度、眺めてみよう。落ち着いたら、今度は自分が成長できるように、手偏にかえて、人生に「挑」んでいけばいいんだ。

「もも・くり三年、かき八年」という。3年で実がなるものもあれば、8年先まで待たなきやいけない育ち方だってある。学校の3年間や6年間で人生は決まらない。

本当は自分の意思や思いをことばで伝えられるといいね。「意」という字は、「音」に「心」と書く。自分にしか分からぬ心の音があるはずなんだ。その音を見せよう。両親や先生、周りの大人们に気づいてもらえるように、手紙やメールで文字にして伝える。でも、それもできないときは、涙を流す。生きたいと思って下を向いて涙を流していたら、誰かが気づいてくれるから。

自分はドラマの主役で、周りは脇役。しあわせに、笑顔になるためのストーリーを作るんだ。笑顔はすべての表情のなかでいちばん大切。花は咲くというけど、昔の人は花が「わらう」とも言った。花はだれかに見てもらうために咲く。花が咲くように笑顔になれたらしあわせだよ。

おかあさんが命をかけて生んでくれたあなたの命は、運命、天命、使命、一生懸命でもあるんだ。たまたまギャグで「命」をやっていたオレが「命の授業」をやるようになったのも何かの使命かもしれない。好きなこと、やりたいことをやって、まわりがしあわせになれるを見つけたら、こんなに興奮することはないよ。だから、生きて人生をもっと楽しもう。